

特集「大会支援のためのクリエイション」
Special Issue: Creation for Supporting Academic Conferences

第47回全国大会 [名古屋] '16のビジュアルデザイン
Visual Design of the 47th Annual Meeting in Nagoya 2016

牧野 暁世
Akiyo Makino

東海学園大学
Tokai Gakuen University

1. 第47回全国大会 [名古屋] '16の概要

2016年6月4日(土), 5日(日)に日本色彩学会第47回全国大会 [名古屋] '16を名城大学天白キャンパスで開催した¹⁾。研究・作品発表は70件, 企業展示は18件で, 海外からの発表者やスタッフ等を合わせて総勢300名以上が参加した。本大会では『自然の光, 人工の光』というテーマを掲げ, これに沿ったさまざまな企画を実施した。初日の特別企画「自然の光, 人工の光」では, 2名の話者により, ホタルの生態や発光の仕組みおよび生物多様性保全に関する話題と, 青色LEDの発光の仕組みや開発の歴史および知的財産の考え方に関する話題が提供された。特別企画と連動した交流会では, 和風庭園に放たれたホタルの光の鑑賞を盛り込み, 参加者は自然の尊さと日本文化の豊かさに触れた。二日目のランチョンセミナー「先人の知恵, 匠の技に学ぶデザイン思考」では, 無意識や輪郭などのキーワードを用いて, 先人が創造したアートやデザインについて講師から説明がなされた。また, 会期中はスポンサー企業や地元ベーカリーの協力を得てドリンクやカラフルなメロンパンを提供した。このように, 本大会は光や色彩に関する最新の情報や, この地・この季節ならではのおもてなしを通じ, 自然環境と技術革新が共存した, 持続可能な地域のあり方について多様な参加者と一緒に考える機会となった。

2. ビジュアルアイデンティティのコンセプトと目標

本大会実行委員会において, 本大会の魅力を的確に表現するビジュアルアイデンティティの制作が決定され, 筆者がその担当者となった²⁾。実行委員会での議論をもとに, ビジュアルアイデンティティのコンセプトを, 大会テーマ『自然の光, 人工の光』と開催地の地域性および季節性の表現とし, これまで実施された全国大会等を踏まえ, 独自性, 視認性, 展開性を達成することを目標とした。はじめに, ビジュアルアイデンティティとしてロゴマークおよびロゴカラーを製作することとした。つぎに, これに基づいたポスター, 当日の会場案内, ノベルティなどの広報物を作成することとした。

3. ビジュアルアイデンティティ

3.1 ロゴマーク

ロゴマークは主たるモチーフを光とし, 光の特徴である, 1. 赤・緑・青といった個別の色光を重ねるごとに明るくなり, これらを全て重ねるともっとも明るくなる, 2. スペクトルは一般的に7つの色名で記述される, といったことを踏まえて形状を検討した。いくつかの試作をおこなった後, ロゴマークの中心をもっとも明るい白とし, その周辺を7色で囲むといったアイデアと, 光という漢字に基づいた図形を中心に配置し, それを線でつなぎ全体を造形するといったアイデアを融合させた複数案を作成した。複数案はどれも全体としては七角形であるとともに, 図地反転で光の漢字や光が拡散するような形状とし, 個別としては7つの三角形のパーツで構成された形状とした。広報物への展開も踏まえて全体や三角形のパーツの細部を調整し, 最終的に実行委員会において提案した4案のうち, 1案が採用された。

3.2 ロゴカラー

ロゴカラーは, 視認性を確保するため, 広報物等の背景色となりやすい無彩色とのコントラストが際立つように, 高彩度色とすることとした。あわせて, 当日の会場内における色彩調和を担保するために, 事前に会場の壁面にアクセントカラーとして用いられている塗装を視感測色し, その色彩値を確認した。それらを踏まえ, PCCSによるvトーンやbトーンを使用した7種類の色彩値を採用することとした。ロゴマークおよびロゴカラーを図1に示す。



日本色彩学会
第47回全国大会
[名古屋]'16

	色の名称 (読み)	Color Name	色のイメージ
1	赤崎レッド (あかさきれっど)	Akasaki Red	赤崎勇教授ノーベル賞受賞に敬意を表して
2	燈燭 (だいでい)	Candlelight	八事山興正寺 (交流会場)の夕べ
3	金鯱 (きんしゃち)	Nagoya Yellow	名古屋市, 名古屋城の金のしゃちほこ
4	蛍光緑 (けいこうみどり)	Firefly	蛍, 「自然の光」
5	水無月 (みなづき)	June	6月, 梅雨
6	青色LED (あおいろえるいーでいー)	Blue LED	青色LED, 「人工の光」
7	紫陽花 (あじさい)	Ajisai	名城大学ロゴカラーの近似色, 6月の花

図1. ロゴマークおよびロゴカラー

一方、色名は実行委員会で数回に渡って慎重に検討された。ロゴカラーに独自性を付加するため、大会テーマ、地域性、季節性にちなんだオリジナルの色名を付けることについては早い段階で了承されていたが、色名の決定にあたり、色名案と色彩とのイメージの整合性や、既存色名に対する知的財産権上の問題、一般的な慣用色名との混同などが懸念され、その都度検討を要した。最終的に、色名を「赤崎レッド(あかさきれっど)」、「橙燭(だいだい)」、「金鯪(きんしゃち)」、「蛍光緑(けいこうみどり)」、「水無月(みなづき)」、「青色LED(あおいろえるいーでいー)」、「紫陽花(あじさい)」とするとともに、本大会開催案内に、ロゴカラーの名称はロゴマークに限定したものであり、一般の色名ではないことを明記することで、独自性を表現しつつ、上記問題を解決した³⁾。さいごに、このようなビジュアルアイデンティティ式のデータを担当者以外にも編集および活用できるように実行委員間で共有した。

4. ビジュアルアイデンティティに基づいた広報物

4.1 ポスター

ポスターは、本大会を象徴したビジュアルアイデンティティに基づき、はじめに4案を作成した。そのうちのロゴマークを構成する三角形のパーツをモザイク状に配置し、大胆さや目新しさ、楽しさを表現した1案が採用された(図2)。ポスターデータは、本学会ウェブサイトやニュース、学会誌に掲載したほか、当日の会場で印刷物を掲示し(図3)、本大会の周知を図った。



図2. ポスター



図3. 研究発表会場での掲示例

4.2 会場案内

当日の会場にも、ビジュアルアイデンティティに基づいたさまざまな案内を作成・設置した。会場の総合的なデザインを図るため、ロゴマークを付した本大会の案内板や、ロゴカラーを活用した各会場案内、経路

を示すためロゴマークを構成する三角形のパーツを組み合わせてデザインした矢印(図4)などを作成した。また、担当者以外の実行委員により、ロゴカラーを活用した会場の区分けを示すサインも作成された。

4.3 ノベルティ

交流会担当者との議論の過程で、おもてなしの一環としてノベルティのうちわを作成することにもなった。学生スタッフにより、表面に三角形のパーツによる小柄模様を、裏面にロゴカラーの名称を付したうちわが作成され、参加者全員に配布された(図5)。



図4. 会場案内



図5. うちわ

5. 評価

本大会の製作物一式は、ランチョンセミナーの講師により一定の評価を受けた。また、うちわを片手に発表会場や交流会場で涼をとる参加者の姿が多数見られた。

6. まとめ

本大会では、コンセプトと3つの目標を設定したビジュアルアイデンティティの作成と、これに基づいた広報物の製作をおこなった。目標であった独自性はロゴマークの形状やロゴカラーの色名として、視認性はロゴカラーの高彩度色として、展開性はポスターや会場案内、ノベルティなどとして示され、それぞれ達成できたと考えられる。また、実行委員会における緊密な情報共有、デザイン上の問題の十分な検討、発展的なアイデアの尊重、協働などがこれらに大きく寄与した。製作物一式は、講師および参加者により一定程度評価を得た。一方、大会全体の調和感には課題が残り、今後は大会企画とビジュアルアイデンティティとのより一層の連動が望まれた。

参考文献

- 1) 第47回全国大会[名古屋]'16実行委員会：日本色彩学会第47回全国大会[名古屋]'16開催報告, 日本色彩学会誌, 2016, 40-4, pp.132-137
- 2) 牧野暁世：日本色彩学会第47回全国大会[名古屋]'16のビジュアルデザイン, 日本色彩学会誌, 2018, 42-3, pp.90-99
- 3) 牧野暁世：日本色彩学会第47回全国大会[名古屋]'16のロゴマークについて, 日本色彩学会ニュース, 2016, 301, p12